

第22回例会「ビジネス情報交換会」不況対策から

今後の発展への取り組み」開催

県央経営者会 副会長 吉村 保典

■日 時 平成21年8月24日（月）午後6時より8時
■会 場 厚木商工会議所 5階大会議室



今回の例会は、不況を脱出するため会員の皆様が全員で考え、知恵を出し合い、有効な方法を共有することを目的に開催されたものです。加えて、今までは会員同士で顔は見知っていても、その人がどういう仕事をしているのか、具体的に何の専門家なのか知らない人が多かったので、こういう機会を通じて真に知り合いになることも目的としました。

この例会自体は上記のような目的で出発



司会進行は吉村副会長



小林厚木市長も参加されました

しましたが、このほかにもいろいろな効果がありました。例えば、各テーブル参加者が予想以上に積極的な発言があり、その為さらに先を見た会合の企画化を目指す必要に迫られた事です。特にあるテーブルでは、「皆で協力して何か作ろうよ」というところまで議論が進んだようです。これらはほんの一例ですが、今回の例会を通じてこのような例会企画も重要なテーマであることが確認できまし

た。今後さらに業種の組み合わせを変えた例会を企画してみたり、いろいろな形を試みながら発展させていこうと考えております。

また、会場の後ろに大泉会長の会社で作られている製品が陳列され、その説明を聞くために多くの参加者の方々が集まり、スケジュールに遅れが出るほどでした。このような各社の製品の紹介をすることがよって、さらに会員同士のつながりが深まることが期待されます。

最後になりましたが、各テーブルのリーダー、記録係りの皆様には大変な役割をお願いし、またそれに対して積極的にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。そして、参加された皆様のお力により今回の例会が成功裏に終了したことに對しまして、この場を借りて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

第22回例会「ビジネス情報交換会」討論内容

例会のテーマとして、「ビジネス情報交換会」の後に「不況対策から今後の発展への取り組み」と銘打ったのは、単なる不況対策だけでなく今後の発展への礎となるものを、各企業が取り込めるような情報の交換会とすることを目的としたためです。当日は、5テーブルに分かれ、次のような組み合わせでディスカッションが行われました。

① テーブル 工業系

進行 中村 幹夫氏、発表 西川 正己氏
記録 横手 久枝氏



女子高校生のバンドが「虎視眈眈（こしたんたん）」という曲をリリースする予定ですが、皆さんも自社の中で何か変わったことをしようと虎視眈眈狙っているという感じがしました。少し前、東大阪の町工場の人たちが集まって、「苦しい時こそ夢を持たなきゃあかん！」ということで、「まいど1号」という人工衛星を打ち上げましたが、自分たちでもそれができるとは思いません。話が進みましたが、そこで時間切れとなってしまいました。次回には、さらに時間を取っていただきたい、もう一度話をしたいと思っています。

今回の不況は世界的なものであり、ほとんどの業界が少なからず



専念し、すべてにクリア出来る会社を創り上げることが大事であると思います。

② テーブル 商業・サービス業系

進行 柏木 貞俊氏、発表 市岡 隆司氏
記録 末澤 広子氏



今後の展開として、自社の商品アイテムを増やすことが大切である、という結論になりました。例えば、ガソリンの高騰により、運送会社の人とタイアップして新しい流通方式を模索している。自社で受注した商品をお届けしてもらうついでに相手の商品も送ってもらい、自社の店舗で売らせてもらう。これを「ギブ・アンド・テイクビジネス」と呼んでいますが、このような取り組みをすることによって、商品アイテムも自然と広がってきます。このことは、無形のものでも同じで、例えば保険屋さんでも自分のお客さんの中で、何かほしいものがあれば、いろいろな業態の方々のお付き合いの中から最適な情報を紹介して、お互いに利益を得るというような事例も発表されました。

③ テーブル 商業・サービス業系

進行 霜島 篤氏、発表 高井 男氏
記録 本田久米子氏・熊澤幸江氏

今年70名近い社員が自宅待機になっている。そのため助成金対策担当者を2名にして、その対策を研究している。教育も助成制度によって行っているが、

④ テーブル 商業・サービス業系

進行 長谷川 康幸氏、発表 栗田 成裕氏
記録 山本 道子氏

われわれのテーブルでは不況を知らない会社もありました。不況の考え方を考える必要があるとのことで、ピンチをチャンスに変える発想が大切ということ。「人が集まらない」からだめではなく、人を集めるチャンスであると考え。すなわち、いろいろな対策をしている会社が早く不況を抜け出すのではないか。もう一つは、情報開示が大切ということで、その会社がどれだけ情報をオープンできるかによって、他社からのアドバイスも得られるということ。



⑤ テーブル 建設・開発・運輸・倉庫業系

進行 飯田 隆三氏、発表 鴨志田 基彦氏
記録 竹村 和子氏

不況対策として、警備会社と連携し24時間体制のビル管理を取り入れたり、地震対策マニュアルの小冊子を作成し、お客さまにくばるなどしているところもあれば、本業とは全く別に、チーズケーキのネット販売を行っているところもあった。また、倉庫業ではあいてきている状況なので、営業マンが外部に出ていろいろ勉強をしてきて、それを社内に持ち帰って社長以下全員で勉強するなど、この不況を乗り切るよう頑張っている。



影響を受けております。売上も最高80%の減少もあるという現況です。
不況対策として、人員整理や経費削減及び助成制度を利用しているという会社がありました。企業の今後の展開としては「ゆりかごから墓場まで」という諺がありますが開発や発想、新しいものにチャレンジして独自の物づくりに力を入れ、一貫した事に

働かないでお金をもらえない仕組みが続くと、その仕組みがしみ込んでしまい、3年も経つとやめて行ってしまう。人をいかに確保していくかが大切になる。



また地元にも、なかなか名前を覚えてもらえないので、イメージキャラクターの車を導入したり、パンフレットを月刊2000部作り、お客さまに配布しているところなど、各社さまさまな取り組みをしていることがわかった。



創立5周年記念公開例会 「アイデアコンテスト」の概要

アイデアコンテスト 実行委員長 増田 健治

当会の創立5周年を記念して、相模川を軸とした未来都市「県央」を絵に描くためのアイデアの募集を7月21日から9月25日の期間を設定して募集しましたが、いよいよその発表大会を11月8日(日)に開催いたします。

当日は、優秀作品を事前に選定して、その作品の提案者の方に会場で発表していただくよう考えております。最終審査は次の方々をお願いしておりますが、いまのところどの作品を優秀作に選定するか、非常に難しい作業となっておりますことをお伝えしておきます。

最終審査員

- 若尾 真一郎氏 東京工芸大学学長
- 山本 圭治郎氏 神奈川工科大学教授
- 創造工学部ロボット・メカトロニクス学科
- 齊藤 進氏 産業能率大学教授 経営学部
- (兼) 地域環境研究所長
- 栗原 梅吉氏 神奈川県内水面漁業協同組合
- 連合会会長
- 鈴木 勇氏 相模川漁業協同組合連合会会長

〈記者発表と説明会開催〉

当会の創立5周年を記念して、相模川を軸とした未来都市「県央」を絵に描くための「アイデアコンテスト」の記者発表が、7月8日に厚木市役所の記者控室を使って開催されました。各新聞社から10名の記者の方々にお集まりいただき、この「アイデアコンテスト」の開催趣旨・目的等が増田健治委員長より発表され、各記者との質疑応答が行われました。



7月25日と8月22日の2回にわたって「アイデアコンテスト」の募集説明会が、県央経営者会の事務局室を使って開催され、



いずれも20名ほどの参加者がありました。両日とも増田委員長はじめ担当委員長の長谷川康幸氏と北村正敏幹事長が説明にあたり、大学生はもとより中年の方も大勢参加され、時間が足りないほど熱心な質疑がありました。

恒例の懇親旅行(移動例会)が開催される

恒例になった懇親旅行が、6月14日(日)～15日(月)に箱根湯本の河鹿荘で行われました。当日は現地集合で、午後4時集合のところ、午後2時には到着した方もあり、5時からの理事会には全員そろって浴衣に着かえ、くつろいだ中にも真剣な討議が行われました。





今回のビジネス情報交換会は、「アイデアコンテスト」のグランプリ、準グランプリ他の作品から具体化できそうなアイデアを抜き出し、その内容をさらに吟味してビジネス展開する方法を検討します。どうすれば実現できるかを皆さんで検討し、ビジネスチャンスの拡大につなげたいと思います、ぜひご参加ください。

- 日時：平成 21 年 12 月 7 日(月) 午後 6 時より
- 場所：厚木商工会議所 5 階大会議室

全国各地からとりよせた、
日本酒、本格焼酎、ワイン、クラフトビールを揃えています。
醸造家たちのこだわりをお楽しみください。

代表取締役
築城 忠生
つくしる ただわ

有限会社 中屋
〒259-1145 神奈川県伊勢原市坂戸391
Tel: 0463-95-0556
Fax: 0463-96-5009
<http://www.umaisake.net/>
webmaster@umaisake.net